

### 15. チューリップ

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
29	フロンサイド粉剤	全面土壌混和	植付前	1回	
M3+1	ホームイ水和剤	30分間球根浸漬 球根粉衣	植付前又は 貯蔵前	1回	
14	リゾレックス粉剤	土壌混和	植付時	1回	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M4	オーソサイド水和剤80	球根浸漬	球根掘取時 及び植付時	8回以内	
3	スポルタック乳剤	15分間球根浸漬 30分間球根浸漬	植付前	1回	
M5	ダコニール1000	散布	-	6回以内	
1	トップジンM水和剤	球根粉衣	植付前又は 貯蔵前	1回	
3	トリフミン水和剤	球根粉衣	植付前	1回	
29	フロンサイド水和剤	散布	発病初期	7回以内	
M7+19	ポリベリン水和剤	散布	発病初期	8回以内	
1+M3	ラビライト水和剤	散布	-	5回以内	

・殺虫剤

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	マラソン乳剤	散布	発生初期	6回以内	花き類・観葉植物

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	オルトラン粒剤	株元散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物(きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く)
	オルトラン水和剤	散布	発生初期	5回以内	花き類・観葉植物
1	ジメトエート粒剤	植穴土壌混和	定植時	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける(「薬剤抵抗性管理」参照)。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

注4) 蚕毒・魚毒については、「28. 花き類の総括注意」も参照する。

病害虫名 (F: 菌類病、B: 細菌病、V: ウイルス病、O: その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
灰色かび病 (F)	3月～6月	1. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ラビライト水和剤 500～800倍液、又はフロンサイド水和剤 2,000～4,000倍液を散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため同一系統薬剤の連用は避ける。
青かび病 (F)	球根掘取時 植付前	[参考農薬] 1. オーソサイド水和剤80の800～1,000倍液に球根掘取時または植付時に浸漬する。	
白絹病 (F)	生育期間	1. 発病株は、発見次第直ちに抜き取り処分する。 2. 球根はよく乾燥させてから貯蔵する。	

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
褐色斑点病 (F)	生 育 期 間	1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り伝染源の除去に努める。 3. 発病を見たら、直ちに罹病部を除去し、薬剤を散布する。 [参考農薬] 1. ラビライト水和剤 500～800 倍液、ポリペリン水和剤、ダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液、フロンサイド水和剤 2,000～4,000 倍液のいずれかを散布する。	1. 薬剤耐性菌の出現を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。
球根腐敗病 (F)	植 付 前 貯 蔵 前	1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り、伝染源の除去に努める。 3. 収穫した球根は傷を付けないように選別・調整し、送風乾燥にて速やかに乾燥し、風通しの良い冷暗所で貯蔵する。 4. 球根に対する薬剤処理は、植付前にホームイ水和剤 200 倍液に 30 分間浸漬処理するか球根重量の 1.0%を粉衣処理する。 [参考農薬] 1. 植付前に球根をスポルタック乳剤 100 倍液 15 分間浸漬か 200 倍液 30 分間浸漬、トップジンM水和剤を球根重量の 0.1%粉衣処理、トリフミン水和剤を球根重量の 0.2%粉衣処理のいずれかを行う。 2. 貯蔵前はトップジンM水和剤の球根重量の 0.1%を粉衣処理する。	1. 消毒液の残液については、農業廃液処理装置を用いて処理するか、産業廃棄物処理業者に処分を依頼する等適正に処理する(特別指導事項参照)。
葉 腐 病 (F)	植 付 前	1. ほ場の排水性向上に努める。 2. 多発地では連作しない。 3. 発病株は抜き取り、ほ場外に埋却する。 4. フロンサイド粉剤 30～40kg/10a、又はリゾレックス粉剤 10～20kg/10a を土壌へ混和処理する。	1. ほ場の多湿、連作が発病を助長させる。
えそ病 (TNV) 微斑モザイク病 (TMMMV) 条斑病 (TSV) (V)	植 付 前	1. 種球根は健全球を厳選する。 2. 発病株は萌芽時から徹底して抜き取り伝染源の除去に努める。 3. 伝搬するオルピディウム菌を防除する。 なお、オルピディウム菌は、土壌中では植物根部残渣中で休眠胞子の形で生存しているため、土壌中の作物根部残渣をできる限り除去する。 4. オルピディウム菌の宿主範囲は広く、雑草にも寄生することから、ほ場内や周辺の雑草防除を徹底する。	1. 抜き取り株は、ほ場に放置しないで焼却処分する。
軟 腐 病 (B)	生 育 期 間	1. 発病株は、抜き取り処分する。 2. 排水を良くする。 3. 窒素質肥料をやりすぎない。	
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	5 月～6 月	1. 健全球根を使用する。 2. ウイルス病発病株は抜き取る。 3. マラソン乳剤 2,000 倍液を散布する。 [参考農薬] 1. オルトラン粒剤を 10a 当り 3～6 kg 株元散布する。 2. オルトラン水和剤 1,000 倍液を散布する。	
ネ ダ ニ	定 植 時	[参考農薬] 1. ジメトエート粒剤を 1 a 当り 4.5～6 kg 植穴土壌混和する。	